

ズグロカモメの保護活動——救助と放鳥

1 自治団体名：遼寧省盤錦(Panjin)市

2 発表者名：張 楨貞(Zhang zhenzhen)

(遼河油田(Liaohé Youtian)第一高等学校 3年8組)

3 活動名：ズグロカモメの保護活動——救助と放鳥

4 活動期間：2000年～2014年

5 活動場所：遼寧省盤錦市双台河口自然保護区

6 活動をはじめた経緯

ズグロカモメが我が国における2級保護鳥類で、絶滅の恐れのある種であり、また、盤錦湿地はズグロカモメの重要な繁殖地であるため、この貴重な種を保護する活動を始めた。

7 発表要旨

盤錦市はアジアにおける最大の湿地で、盤錦湿地の双台河口は国家級自然保護区である。ここには、253種類の鳥類が生息し、中には、タンチョウヅルやズグロカモメのような国家1、2級の保護動物もいる。私たちの盤錦市はズグロカモメの故郷と呼ばれている。ズグロカモメ愛護者の努力により、盤錦市にすでに8000羽以上のズグロカモメが生息し、この数は、世界の総生息数の80%以上を占める。盤錦湿地は、今、ズグロカモメの種類・分布が最も集中している生息地と繁殖地となっている。

私はズグロカモメ保護協会の一員として、ズグロカモメの保護および生態環境の保全に微力を尽くしているところである。十四年前から毎年、3月になると、私は家族と一緒に野原に行き、お米をまいて、渡ってくる鳥達に餌を与え、空腹に耐えている鳥達を助けている。私は“春先の鳥を撃つな！ひな達が母を待っているよ”という内容のポスターを作り、あちこちに張り、また、ズグロカモメを守ろうというテーマの宣伝画を創作し、いろいろな機会を利用して、多くの人に見せるようにしている。

中学校に進学後、クラスで鳥類愛護活動について呼びかけ、また、クラスメートに活動に参加してもらうよう働きかけた結果、私たちのクラスは愛鳥クラスに選ばれた。2009年9月に、はじめて、高圧線に触れて両足を怪我したズグロカモメが我が家に送られてきた。家族一丸となって、この怪我したズグロカモメの治療・世話をし、また、飛行訓練をさせ、やっと、一年後の2010年に青空に放鳥することができた。その後、家族の協力を得ながら、また5羽のズグロカモメの救助と放鳥ができた。

長年の環境保全活動を通じて、人・鳥・湿地の関係について、より一層理解することができた。湿地は人間と鳥類が共有する世界であり、人と鳥は平等な生存権利を持っている。人は鳥と仲良く付き合っこそ、はじめて湿地を良い状態に保っていくことができると思う。鳥類に良い生存環境を提供することが、私たち自身のためにもなると言えるでしょう。

これからもこのような努力をし続けていきたいと考える。母なる地球のために！